

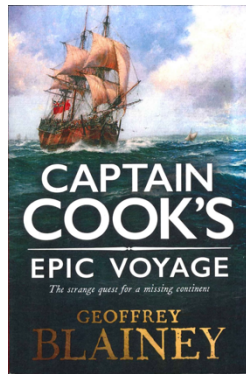
1. 豪州人から見たボタニーベイ

3月上旬にカンボジア・シェムリアップでの国際会議に出たあと、バンコクまでの帰りの便で出席者の一人のオーストラリア人(豪州人)と一緒にになってしまいました。幸い座席は離れているのですが、出発までの1時間、どうやってやり過ごそうか、困りました。彼の英語は早口でわかりにくい上に、わりと堅苦しいことを言う人なのです。話に窮して「ボタニーベイを知っていますか」と聞いたところ、「もちろん!」。彼の現住所はボタニーベイからかなり北のブリスベンなのですが。

帰国して3週間、忘れた頃にメールが来ました。まずはDeepLで翻訳した文章を微修正して掲載します。

山路さんへ、

シェムリアップ空港で、あなたがシェンティの歌手であることについて話した後、私はクックの航海250周年を記念したジェフリー・ブレインの本「キャプテン・クックの大航海」を読みました。この本から数ページをコピーして添付します。

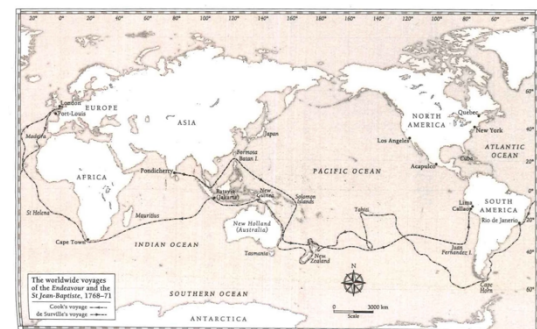


キャプテン・クックはニュージーランドから西へ航海し、1770年4月19日にオーストラリアの東海岸に出会いました。その後、海岸沿いに北上し、4月28日にボタニー湾の入口を発見し、5月5日まで滞在しています。

クックはボタニー湾について報告書を書き、後にジョセフ・バンクス卿が当時のイギリス政府に入植地の候補地として提案しました。

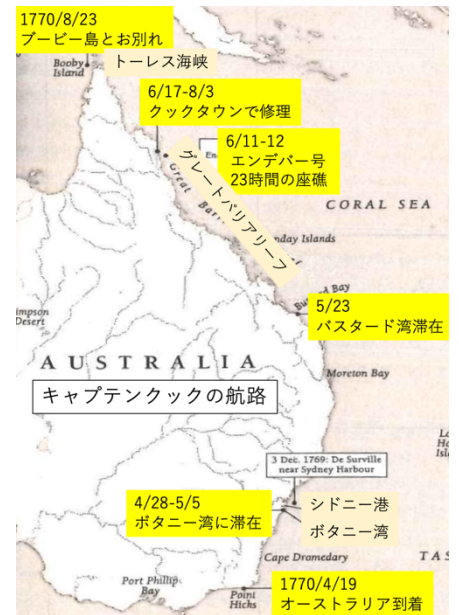
クックはボタニー湾から北へ航行を続け、シドニー湾の入口を確認したが、入港はしませんでした。5月23日にバスタード湾に上陸し、6月11/12日にグレートバリアリーフの珊瑚礁に衝突した。エンデバー号は損傷したため、クックは錨地を見つけ、川のほとりに停泊して6月17日から8月3日まで船を修理した(のちにクックタウンと名付けられた)。損傷した船の木製の梁を交換する必要があったため、ユーカリの木を切り修理したが、それには時間がかかった。修理が終わると、クックはトールレス海峡を西に抜け、イギリスへと航海を続けた。

クックの航海の後、1775年にアメリカ独立戦争が起こった。イギリスは、囚人を収容する場所としてアメリカ植民地を失った。1770年のクックの報告書から、新しい流刑地の候補地としてボタニー湾を特定した。ボタニー湾は、クックの航海に同行した2人の植物学者バンクスとソランダーが、この地で多くの新植物を発見したことから、クックによって「ボタニー」ベイと名付けられた。



1778年、アーサー・フィリップ船長は、新しい流刑地を建設するため、数隻の船団を率

いてイギリスからボタニー湾に航海した。しかし、しばらくして、ボタニー湾は新しい植民地の設立に最も適した場所ではないことがわかった。さらに北上すると、シドニー湾には優れた港があり、より良い場所であることがわかり、そこに入植地を移してシドニーとなった。いま、ボタニー湾はメトロポリタンシドニーの一部であり、シドニー空港の所在地でもあります。



私はシドニーで生まれ、シドニーで育ちました。ボタニー湾の南側、クックが上陸したカーネルと呼ばれる場所に何度も足を運んだことがあります。そこには、クックの上陸を記念するオペリスクがあります。このことは学校で習いました。

Bustard Bay (現在は「1770」と呼ばれている)を訪れたこともあります。そこには、1770年のクックの上陸を記念する記念碑があります。

別の旅でタウンズビルからケアンズまで行き、さらに300kmほど北上すると、クックタウンの町があります。そこには、クックが船を修理したことを示す記念碑もあります。

ボタニー・ベイとその意味について、あなたのセーリング・ソングを理解するために、この記事がお役に立てれば幸いです。

よろしくお祈りします。 バリー・ノラー

2. ボタニーベイに行けなかった話

2017年にオーストラリアの水田調査に行った。シドニーからナランデラに乗り継ぐ。帰りの飛行機がシドニー空港に近づく頃、窓からボタニーベイを探すも、見つからず。シドニーに1泊したのは乗り継ぎ便の都合でもあるが、ボタニーベイに行くことができるかも、と思ってたからだ。しかし、情報不足であり時間も足りず、行くことは叶わなかった。(山路永司)

3. 先住民の苦しみ

シャイン・ウィリアムズさん(60)はクックらの上陸の様子を、父母からこんな風に伝え聞いてきた。湾の近くに住んでいた先住民集団、グウィーガルの子孫だ。

先住民の男たちが石を投げた。だが、白人らが舟に退く気配はない。2人が槍を持ってきて投げた。警告の意味だったが、白人の1人が銃を発射。1人の足に当たり、林に逃げた。

「私たちの文化の消滅の始まりだった。独自の言葉も、紛争を収める司法や政治の仕組みもあったのに」

上陸したクックらは湾の近くの小川で、航海に必要な水を探った。5月5日に北へ出航。豪北東部まで進み、同年8月には豪東岸を英国の領土だと宣言した。(朝日新聞デジタル版)